

○ ジャンル / S F

○ ストリー / アンドロイドの民間利用が始まった時代。母親を亡くした柿本家に、アンドロイドのおばあちゃんがやってきた。料理から宿題の手伝いまで、なんでも完璧にこなすおばあちゃんに、長女のスギエと長男のカシオはビックリ。しかし、末娘のクリコだけは、おばあちゃんと口をきこうとしなかった。そして、一カ月後、おばあちゃんを家から追い出すために、クリコはある決意をする……。

○ 出演者 / 男 4 十女 7 計 11

○ 上演時間 / 60 分

登場人物

おばあちゃん	(柿本の次女)
クリコ	(柿本の長男)
カシオ	(柿本の長女)
スギエ	(柿本の長女)
柿本	(ニュースキャスター)
サイゴウ	(ニュースキャスター)
オオクボ	(レポーター)
カツラ	(クリコと同級生)
ヨシダ先生	(クリコの担任)
サカモト	(F R S 職員)
ヒジカタ	(F R S 職員)

明るくなると、一組の男女が並んで立っている。

二人

こんばんわ。

柿本

ニュース・プラネットの時間です。

サイゴウ

政治経済、科学に教育、国際問題からご近所の噂話まで、ホットな話題を冷めないうちにお届けします。

柿本

司会は私、柿本光介と――

サイゴウ

サイゴウタカコです。

柿本

最後まで、ごゆっくりお楽しみください。

二人が頭を下げる。

サイゴウ

まず最初は、昨年末より話題になっておりますFRSが、いよいよ明日午前九時より営業を開始する、というニュースから。

柿本

この番組でも何度かレポートしましたので、覚えていらっしゃる方も多いかと思いますが、FRSというのは厚労省の外郭団体で、一般のご家庭に

アンドロイドを貸し出す機関なんです。

サイゴウ

FRSは、ファミリー・レンタル・サービスの略ですね。

柿本

サイゴウ

柿本

サイゴウ

柿本

サイゴウ

柿本

サイゴウ

別の場所に、オオクボとサカモトが現れる。

オオクボ

サカモト

オオクボ

日米共同開発で、アンドロイドの第一号が誕生してから、今年で十五年に
なりませんが、実際にアンドロイドに会ったという方は、あまりいらつしや
らないでしょう。アンドロイドの使用は、政府関係の医療施設や福祉施設
でしか認められていませんからね。

見た目は私たちと全く同じですから、何度も会って話までしたのに、全然
気がつかなかったという方もいるようです。

もともとアンドロイドは、近年、人手不足が問題となっている老人福祉の、
新しい担い手として研究開発が進められてきました。その成果を、今度は
児童福祉へも振り向けようというのが、FRSなんです。

FRSはその名の通り、家族を貸し出す機関というわけです。

とは言っても、どんな人でも自由に借りられる、というわけではありませ
ん。FRSの審査に合格して、初めて借りることができるとはあります。

アンドロイドを悪用されたら困りますからね。

詳しい話は、実際にFRSの方に聞いてみた方が早いでしょう。

今、レポーターのオオクボさんが、そちらに行ってるんです。オオクボさ
ん！

はい、私が今来ていますのは、青山にあります、FRSの東京センターで
す。お隣にいらつしやるのが、広報担当のサカモトさんです。

よろしく願います。

さて、サカモトさん。今回貸し出されるアンドロイドは、七十歳前後の女

サカモト
オオクボ

サカモト

オオクボ
サカモト

オオクボ
サカモト

オオクボ
サカモト

サイゴウ
サカモト
サイゴウ
サカモト
サイゴウ

性タイプということですが。

僕らは、おばあちゃんと呼んでます。

どうしておばあちゃんなんですか？ 児童福祉という目的からすれば、母

親の方が適当でしょう？

アンドロイドは母親にはなれません。機械には子供が産めませんからね。

しかし、おばあちゃんにはなれるかもしれない。

機械は人間にはなれませんよ。

しかし、機械にできて、人間にできないこともあるでしょう。FRSのお

ばあちゃんは何でも知っています。物理だったら、この原理から超ひも

理論まで、あらゆる法則が小学生にもわかるように説明できます。

てこの原理なら、私だって。

お料理だったら、肉ジャガからサーロインステーキまで、ざっと一万種類

のメニューが作れます。

私はカレーしか作れません。

さらに、FRSのおばあちゃんは、一度聞いたことを絶対に忘れません。

三人の子供がいつぱんに叫んでも大丈夫。三人の言葉を、すべて聞き分け

ることができません。そして、何より大切なのは、三人の子供を平等に愛す

ること。

機械が人間を？

おばあちゃんが子供を思う気持ちは、時として母親を超えるんです。

気持ちはあれば、の話ですけどね。

あったらどうします？

坊主になります。

柿本 サカモトさん、おばあちゃんを借りるには、F R S の審査に合格しなければ

ならないんですよね？

本当に必要なかどうか、確かめなくちゃいけないんで。

たとえば、僕の家はどうでしょうか。

失礼ですが、奥さんは？

一年前に亡くなりました。

お子さんは？

三人います。一番上が今年中三になる女の子、次が中二の男の子、末っ子

は女の子で小六です。

他にご家族は？

いません。だから、家の仕事は全部、長女がやってくれています。でも、

来年は高校受験なんです。

手っ取り早く、再婚したらどうですか？

誰と。

機械よりは人間の方がマシでしょう？

お父さんの再婚を喜ばない子供もいますからね。

（サカモトに）どうぞでしょう。僕の家にもおばあちゃんは来てくれるでし

ょうか。

明日、こちらへお越しください。お話によっては、一人目のおばあちゃん

がお伺いすることになるかもしれません。

ありがとうございます。

本気でするか、柿本さん？

（正面に向かって）スギエ、カシオ、クリコ。明日は学校が終わったら、

柿本 サイゴウ

柿本 サカモト

柿本 サイゴウ

柿本 サカモト

柿本 サイゴウ

柿本 サカモト

真っ直ぐ家に帰って来るんだ。おばあちゃんを迎えるために。

カシオがやってくる。

カシオ

何気なく見上げた空が、あまりに広くて胸がつまった、そんなことが何度かある。一度目は、中学の入学式の日。母さんが死んだ日だ。病院の屋上から見上げた空は、海よりも青かった。海には底があるけど、この空には果てがない。そう思うと、淋しくてたまらなくなった。地球が太陽の周りを回っているなら、春の次には夏が来るはずだ。それなのに、僕の家には夏が来なかった。かわりにやってきたのは、静かで冷たい冬だった。たとえば、誰かの誕生日、どんなにはしゃいで大騒ぎしても、バースデイケーキのろうそくを吹き消した瞬間、思わずためいきが出てしまう。しかも、暗闇の中から聞こえてくるのは、僕のためいきだけじゃない。四人分のためいきなんだ。だから、父さんは、あんな決心をしたんだと思う。一年続いた冬のある日、おばあちゃんはやってきた。僕らの冬を終わらせるために。

そこへ、スギエがやってくる。

スギエ

カシオ、そろそろ時間よ。

カシオ

おばあちゃんがやって来て、今日でちょうど四年になる。クリコも今年か

ら高校生だ。おばあちゃんの仕事は、これですべて完了したのだ。

そこへ、クリコがやってくる。

クリコ

お兄ちゃん。早くしないと、おばあちゃん、行っちゃうよ。

カシオ

おばあちゃんが行ってしまふ。でも、引き止めるわけにはいかない。次の

スギエ

家の子供たちが、おばあちゃんの来るのを、楽しみに待っているんだから。

カシオ

カシオ、あんた、おばあちゃんを見送らないつもり？

スギエ

姉さん覚えてる、四年前のあの日。父さんがテレビで、おばあちゃんを借りるぞって宣言した夜を。

カシオ

忘れるわけじゃないでしょう？

クリコ

クリコなんか、カンカンに怒っちゃってさ。

スギエ

だって、一人で勝手に決めるんだもん。

カシオ

お父さんに断固抗議するんだって、十二時過ぎまで、帰りを待ってたのよ

ね。何も知らない父さんは、すっかりご機嫌で、お酒まで飲んでるみたいだった。

そこへ、柿本が歌いながらやってくる。

柿本

ただいま。と言っても、こんな時間じゃ、みんな寝てるよな。

スギエ

お帰りなさい。

柿本

お帰りなさい、か。その声はスギエだな。スギエはいい子だな。寝てても、

クリコ
柿本

カシオ
柿本

スギエ

柿本
クリコ
カシオ
柿本
三人
柿本
三人
柿本

父さんの帰りはちゃんとわかるんだから。でも、女の子の寝言はよくないな。お嫁に行くまでには、直しておかないと。

何ブツブツ言ってるのよ。その声はクリコか。クリコまで寝言を言うのか。遺伝かな。でも、母さんにはそんな癖なかったぞ。ということは、父さんか？ そう言えば、朝起きると、喉が哽れていることがある。ニュースを読んでいる夢を見ると、必ずだ。あれは全部、寝言になつたのか。

父さんの寝言でも、僕らのは寝言じゃないよ。

いや、寝言に決まつてる。もう十二時をとくに過ぎていているんだ。うちの子が起きてるわけない。試験前以外は十二時までには寝るって、約束してあるんだから。

お父さん。私たちがこんな時間まで起きてたのは、お父さんに話があるからなのよ。

話なら、明日の朝にすればいいじゃないか。

話をしなくちゃ、眠る気になんかなれないの。

僕たちみんな怒ってるんだよ。

父さんのことを？

そう。

もしかして、おばあちゃんを借りるって、一人で勝手に決めちゃったから？
そう。

ごめん！ 父さんが悪かった！ あの後、すごく反省したんだよ。父さんは、去年の暮れにFRSができるって聞いて聞いてから、ずっと迷ってたんだ。そのくせ、おまえたちには一言も相談しなかったもんな。でも、サカモト

カシオ 柿本 スギエ 柿本 スギエ クリコ スギエ カシオ スギエ 柿本 クリコ 柿本 クリコ

さんの話を聞いて、やっぱり借りた方がいって決心したんだ。みんな、おまえたちのためを思ってしまったことなんだ。明日は朝一番で、F R S に行ってくる。だから、今日は早く寝なくちゃ。おやすみ。

結局、私たちの意見は聞かないつもり？

こんな時間まで起きてたんだ。どうせ反対なんだろう？

いつもみたいに多数決を採ってよ。民主的な家庭にしようって言ったのは

お父さんでしょう？

クリコはすごいな。小学生のくせに、民主的なんて言葉知ってるんだ。だ

ったら、大統領は議会に対して拒否権が使えることも知ってるんだな？

選挙もしてないのに、いつから大統領になったの？

お父さん。私たちは、お父さんが一人で勝手に決めたことを怒ってる

んじゃないの。F R S の人が言ってたでしょう？ おばあちゃんを本当に

必要としている家にしか貸すことはできないって。

(柿本に) 家には必要ないじゃない。

クリコ。(クリコを制して) お父さんは私の受験のことを心配してくれて

るんだらうけど、勉強なんて、授業をしっかり聞いてれば充分なのよ。私

の成績、家の仕事をするようになってから下がった？

下がるどころか、ぐんぐん上がった。

このまま行けば、志望校には楽に入れるって、先生にも言われたのよ。

父さんも言われたよ。中学生とは思えない、しっかりした娘さんですわねっ

て。自分の子供を褒められて、うれしくない親がいるもんか。でも、うれ

しい気持ちの片隅に、ちよっぴり苦しい気持ちもあるんだ。

苦しい気持ちって？

柿本

スギエはとっても頑張ってる。カシオだって遅刻をしなくなつたし、クリコだってトマトが食べられるようになった。この一年間、本当によく頑張つてきた。でも、やっぱりまだ子供なんだから、たまには誰かに甘えたり、わがままを言つてもいいはずだ。

クリコ

機械にどうやって甘えるのよ。

柿本

機械だと思ふからいけないんだ。

クリコ

でも、人間じゃないでしょう？

柿本

クリコは大好きなぬいぐるみを、友達みたいにしておかしくなつてくたさう。

クリコ

自分が人間だと思えば、どんなものになつて魂は宿るんだ。

柿本

友達にほしいけど、おばあちゃんなんかじゃないの。

クリコ

子供には母親が必要なんだよ。クリコはまだ小学生じゃないか。でも、父

柿本

さんは再婚するつもりはない。おまえたちの母さんはたった一人だ。だから、おばあちゃんなんだよ。

カシオ

：：姉さんの家庭教師もやってくれるんじゃないかな。

スギエ

家庭教師ならカシオでしょう？ 理科以外はみんな赤点じゃない。

柿本

クリコにだつて、知りたいことを何でも教えてくれるよ。

クリコ

私は自分で調べるからいい。

クリコが走り去る。

柿本

クリコ！（スギエとカシオを振り返つて）実際に会えば、すぐに仲良く

スギエ

なるさ。さあ、もう寝よう。明日は早起しなくちゃな。おやすみ。おやすみなさい。

柿本とスギエが去る。

カシオ

僕はもともと賛成だった。アンドロイドには興味があったし、姉さんやクリコのことを考えれば、やっぱりおぼあちゃんには必要だったんだ。クリコがいらなくて言い張れば言い張るだけ、父さんの言った苦い気持ち、僕の胸の中に広がった。そういう僕も、冬の寒さにはすっかり参っていた。おぼあちゃんが来れば、何かが変わるかもしれない。そんな期待もちよっぴりあった。でも、まさかあそこまで変わってしまったなんて……。次の日の夕方、僕たちの家に、春一番が吹いた。

チャイムの音。スギエ・クリコが飛び出す。

クリコ　来た来た来た！
 カシオ　あれ？　父さんは一緒じゃないのかな？
 スギエ　もうすぐニュースの時間でしょう？　きっとおばあちゃん一人で来たのよ。
 カシオ　姉さん、出てよ。
 スギエ　何言ってるの。こういう時は、家族みんなでお出迎えするのよ。
 クリコ　私、宿題やらなくちゃ。
 スギエ　クリコ、ずるいわよ。

クリコが走り去る。チャイムの音。

カシオ　そう言えば、僕も宿題があっただ。
 スギエ　学校の勉強は家庭に持ち込まない主義じゃなかったの？
 カシオ　理科の宿題なんだよ。星座の観察。
 スギエ　そんなの、寝る前にやればいいじゃない。カシオ！

カシオが走り去る。チャイムの音。

スギエ

はい、今、行きます！ ……長女って損だ。イヤなことはみんな私に押しつけるんだから。

スギエがドアを開ける。誰もいない。

スギエ

あれ？（見回して）あれ？

スギエが去る。カシオがやってくる。天体望遠鏡を持っている。

カシオ

あれ？ 今日結構星が出てるな。でも、東京から見えるのは、三等星か四等星までなんだよね。やっぱり百科事典を写しちやおうかな。（望遠鏡を覗く）

そこへ、おばあちゃんがやってくる。日傘を差して、トランクを持っている。

おばあちゃん

見えない星まで書きちゃっていいの？

カシオ

僕の視力は一〇・〇ですって、言うからいい。

おばあちゃん

あら、私の視力と同じじゃない。

カシオ

嘘だね。

嘘じゃないわよ。私には本当のことしか言えないの。あのね、一〇・〇の人間なんてマサイ族にしかないんだよ。（おばあちゃんを見る）

おばあちゃん

カシオ

おばあちゃん

カシオ

おばあちゃん

カシオ

おばあちゃん

カシオ

おばあちゃん

カシオ

おばあちゃん

カシオ

おばあちゃん

カシオ

おばあちゃん

カシオ

おばあちゃん

カシオ

おばあちゃん

カシオ

おばあちゃん

カシオ

それじゃ、あんた、マサイ族？

……どこから入ったの？

何回チャイムを鳴らしても、開けてくれないんだもん。それより、あんた、カシオくんでしょう？

(頷く)

今やつてるのは、理科の宿題？

(頷く)

理科は嫌い？

(首を横に振る)

好きなの？

(頷く)

だったら、まじめにやらなくちゃ。ほらほら、望遠鏡を覗いて。ミザール

はどの星かわかる？

ミザール？ 北斗七星の一つだよね？

知ってるんじゃない。

全部名前を覚えたんだ。ドーブエ、メラク、フェクダ、メグレズ、アリオ

ト、ミザール、ベネトナーシュ。

そうそう、ミザールは六番目の星。ということとは？

上から数えるのか、下から数えるのか、わからない。

あんた、本当に理科が好きなの？

好きだよ。この望遠鏡だって僕のだし。

でも、あんまり使っていないみたいじゃない。

いちいち覗いて見るより、本で調べた方が早いから。

おばあちゃん

スギエ
おばあちゃん

クリコ
おばあちゃん
スギエ
おばあちゃん

スギエさんとクリコちゃんね？ よろしく。ところで夕食の支度はもう始
まっちゃいました？

いいえ、まだこれから……。

よかった、間に合った。(トランクからエプロンを取り出して) 今夜はと
びっきりのご馳走を作りますからね。なんてったって、私の初仕事なんだ
し。もちろん、みんなも手伝ってくれるでしょう？ スギエさんは買い出
しをお願いね。すぐにリストを作るから。カシオくんとクリコちゃんはお
部屋の飾り付けをよろしく。

飾り付け？

だって、今夜はパーティだもの。

パーティって、何の？

決まってるでしょう？ 私の歓迎パーティよ。

柿本とサイゴウが現れる。

サイゴウ

続いているニュースは、昨日もお伝えしましたFRSについて。

柿本

さて、待ちに待ったFRSの営業が、本日午前九時より開始しました。青山のセンターには、予想をはるかに上回る応募者がつめかけ、一時はパニック状態になったようです。

サイゴウ

アンドロイドを借りる最初の人間になりたくて、徹夜した方までいたそうですね。

柿本

そこで今日は、記念すべき第一号を借りることになったご家庭をレポートすることにしました。

サイゴウ

今、レポートのオオクボさんが、そちらのお宅に行ってるんです。オオクボさん！

別の場所に、オオクボが現れる。

オオクボ

はい、私が今来ていますのは、杉並区にあります、柿本さんのお宅です。

柿本

第一号は僕だったんですね。

オオクボ

早速中に入って、おばあちゃんの仕事を拝見することにしましょう。

そこへ、おばあちゃんが飛び出す。

おばあちゃん　ちよūdどよかった。あなたも椅子を運ぶの、手伝ってください。
オオクボ　この騒ぎは何でしょう。部屋の模様替えでもしてるんでしょうか。

そこへ、カシオが飛び出す。

カシオ　パーティーだって。
オオクボ　パーティー？

そこへ、スギエ・クリコが飛び出す。

スギエ　おばあちゃんの歓迎パーティーよ。このマイク、いいですか？（マイクを取って）お父さん、まさか、お父さんがやるって言い出したんじゃないでしょうね？

クリコ　また私たちに黙って？

柿本　謹んでお詫び申し上げます。

二人　お父さん！

おばあちゃん　ほら、あんたたち。口は動かさないで、手を動かす。

オオクボ　すみません、あなたがアンドロイドのおばあちゃんですか？

おばあちゃん　私をおばあちゃんと呼んでいいのは、家の子供たちだけよ。

スギエ　おばあちゃん、このお鍋、次は何を入れるの？

カシオ
おばあちゃん
オオクボ

サイゴウ
オオクボ

カシオ

クリコ

スギエ
オオクボ

クリコ

柿本

サイゴウ

おばあちゃん

オオクボ

おばあちゃん

柿本
おばあちゃん

柿本
スギエ

（同時に）おばあちゃん、このクリスマスツリー、どこに置くの？
にんじん。窓の下。

驚きました。二人の言葉を完璧に聞き分けています。まさに完璧なおばあちゃんです。

何だか性格がきつそうですね。子供たちが心配だわ。

（カシオに）ちよっと君、聞いてもいいかな。おばあちゃんが家に来て、

どんな気持ち？

忙しくてそれどころじゃない。

誰も歓迎してないのに、どうして歓迎パーティーなの？

相手はアンドロイドなのよ。逆らわないで、言う通りにするの。

（クリコに）やっぱりアンドロイドは怖い？

だって、叩かれたら痛いだろうし。

叩くもんか。アンドロイドには、人間を傷つけることはできないんだ。

でも、故障して暴れ出したら、誰にも止められないでしょう？

（クリコに）ガオーッ！なんて暴れてほしくなかったら、手を動かすの。

もし子供たちが言うことを聞かなかつたら、子供たちを叩きますか？

それは親の仕事でしょう？ おばあちゃんの仕事は、叩かれた子供たちを

慰めること。

サカモトさんの言った通りだ。それより、お父さん。仕事が終わったら、真っ直ぐ帰ってきてくださいよ。

お酒なんか飲みに行かないで。

変なこと言わないでくださいよ。全国ネットなんですから。

あれ、クリコは？

カシオ

トイレにでも行ったんじゃないの？

柿本

なんだあいつは。またおなかグルグルピーか？

スギエ

お父さん、全国ネット。

おばあちゃん

たぶん、私と口をききたくないのよ。

柿本

すいません。末っ子で甘やかしたせいとか、どうも人見知りか、どうも人見知りか、どうも人見知りが激しくて。

カシオ

クリコだけは、おばあちゃんを借りるのに反対だったんだ。

スギエ

私たちだって、最初は反対したでしょう？

柿本

スギエ、クリコを呼んできなさい。

おばあちゃん

私が行きましょう。とにかく一度は話してみなくちゃ。

おばあちゃんが去る。

スギエ

：：おばあちゃんて、誰かに似てるね。

カシオ

誰かって？

スギエ

お母さんによ。

柿本

当たり前だ。母さんの写真を持って行って、こいつが七十歳になった時の

スギエ

顔にしてくださいって頼んだんだから。

柿本

お母さんはあんなふうにはならないわ。当たり前だ。おばあちゃんだから。

カシオ・スギエ・柿本・サイゴウ・オオクボが去る。おばあちゃんがやってくる。

おばあちゃん

クリコちゃん、中にいるんでしょう？

開けてくれない？

そこへ、クリコがやってくる。

おばあちゃん まだ、ちゃんとお話ししてなかったでしょう？ クリコちゃんがどんな子か、

おばあちゃんに教えてくれない？

クリコ (去ろうとする)

どうしても開けてくれないなら、強行突破するしかないわね。

クリコ (ドアを支える)

おばあちゃん でも、そんなことしたら、ますます口をきいてくれなくなっちゃう。ねえ

クリコちゃん、せめて声だけでも聞かせてくれない？ 「おばあちゃんな
んかあつちに行っちゃえ」でもいいからさ。

クリコ (去ろうとする)

おばあちゃん おばあちゃんはクリコちゃんが好きよ。たとえクリコちゃんが強情っぱり

でも、泣き虫でも、淋しがりやでも、分数の割り算がわからなくても、四
国にある県の名前が全部言えなくても、クローリングが苦手でも、平泳ぎが苦
手でも、要するに水泳は全部苦手でも、トマトが嫌いでも、歯医者さんが苦
嫌いでも、おばあちゃんが嫌いでも。

クリコはもういない。

おばあちゃん おばあちゃんは、クリコちゃんのおばあちゃんなんだから。

カシオがやってくる。

カシオ

春一番が吹いたからと言って、すぐに暖かくなるわけじゃない。だけど、冬の寒さに震えてる暇は、一瞬もなくなくなった。おばあちゃんは、本当に何でもできる。さすがの姉さんも、おばあちゃんの実力を認めないわけにはいかなかった。僕はすっかり星座に詳しくなった。クリコは……、クリコだけは、おばあちゃんと口をきかなかった。食事の時間以外は、自分の部屋から出てこない。父さんは、そのうち我慢できなくなるさって笑ったけど、クリコの頑固は父さんの遺伝だ。こうして最初の一月は、あつという間に過ぎてしまった。

チャイムの音。クリコとカツラがやってくる。反対側から、ヨシダ先生がやってきて、二人の行く手に立ち塞がる。

カツラ

先生さようなら。

ヨシダ先生

はい、さようなら。（言いながら動かない）

カツラ

先生さようなら。

ヨシダ先生

はい、さようなら。（言いながら動かない）

カツラ

さようならって言ってるのに。

ヨシダ先生

柿本さんは、どうして言わないのかな。

カツラ

クリコちゃんと言わないから、帰らせてくれないんですか？

ヨシダ先生

どうしてかな、柿本さん。

カツラ

クリコちゃん、また何かやったの？

ヨシダ先生

今日の三者面談は、柿本さんの順番じゃなかったかな。

クリコ

そうだ、私、すっかり忘れてた。

ヨシダ先生

へえ、忘れたの。先生はまた、知ってて帰っちゃうのかと思った。

カツラ

先生、今、何て言いました？ 知ってて帰っちゃうのかと思った？

ヨシダ先生

違うのよ、カツラさん。先生はそんなつもりで言ったんじゃないの。でも

クリコ

ヨシダ先生

クリコ

ヨシダ先生

クリコ

ヨシダ先生

カツラ

ヨシダ先生

クリコ

ヨシダ先生

クリコ

ヨシダ先生

クリコ

ヨシダ先生

カツラ

クリコ

ヨシダ先生

クリコ

ヨシダ先生

クリコ

ヨシダ先生

ね、柿本さん。三者面談のプリント、ちゃんとお家の人に渡した？
渡しました。

お家の誰に？

：：家はお母さんがいないし、お父さんは仕事が忙しいから、学校には誰も来られないんです。

そう思って、お家の人には見せないで、机の引き出しの中に放り込んだ。

どうしてそこまで知ってるんですか？

先生くらのベテランになると、クラスの子の気持ちは全部わかるの。

それじゃ、私の気持ちもわかるんですか？

もちろん。

それじゃ、私は今、何を考えてるでしょう？

さあ、柿本さん。教室に戻りましょう。

面談するんですか？ 家は誰も来られないのに。

一人いるでしょう、来られる人が。

：：まさか。

柿本さんたら、おばあちゃんがいるって教えてくれないんだもん。先生、

今までいろいろ気を遣って損しちゃった。

え？ クリコちゃんにはおばあちゃんがいるの？

いないよ。

どうして隠すの。あんなにいいおばあちゃんなのに。

先生、会ったんですか？

お昼休みに電話があったのよ。三者面談は親じゃなくちゃいけないんです
かって。お家の人なら誰でもいいのよ。だから、三時に来てくださいって

カツラ 言っておいた。
ヨシダ先生 もう三時ほとくりに過ぎてるよ。
ほらほら、おばあちゃんを待たせちゃ悪いでしょう？
一緒に教室に戻り
ましよう。

クリコが走り去る。

ヨシダ先生 どうしたの、柿本さん！
カツラ 先生、クリコちゃんは反省したんですよ。おばあちゃんを待たせちゃ悪い
から、あんなに急いで戻ったんです。ところで、先生、私は今、何を考
てるでしょう？

ヨシダ先生が走り去る。

カツラ そうです。先生も走った方がいいって考えてたんです。

カツラが走り去る。クリコが飛び出す。周囲を見回す。そこへ、おばあちゃんがやっ
くる。

おばあちゃん 残念でした。一等賞はおばあちゃんでした。
クリコ 〃：私の部屋に勝手に入ったでしょう。
おばあちゃん 〃：お掃除をするためにね。でも、一応ノックはしたわよ。
クリコ 私 〃：私の部屋は私が掃除することになってるの。毎週日曜日に掃除機をかけて、

おばあちゃん

ぞうきんで拭いてるの。

クリコ

だから、あんなにきれいだっただ。ただし、ベッドの下と机の裏側はホコリがたまってたみたいね。手が届かなかったんだろうけど。

おばあちゃん

それまでとっておくつもりだったの？ そうと知っていれば、拭かなかつたのに。

クリコ

私の机の引き出し、勝手に開けたでしょう！

おばあちゃん

開けたんじゃないのよ。机を持ち上げて床を拭いてたら、引き出しがスルスルスル出てきちゃって、ガシャンって。

クリコ

どうして勝手なことばかりするの？

おばあちゃん

私じゃないのよ。引き出しのやつが勝手に——

そこへ、カツラ・ヨシダ先生が飛び出す。

カツラ

この人がクリコちゃんのおばあちゃん？
違うよ。

おばあちゃん

ヨシダ先生ですね？ いつもクリコがお世話になってます。

ヨシダ先生

はじめまして。

クリコ

違うって言うてるでしょう？

ヨシダ先生

どうしたの柿本さん。せっかくおばあちゃんが来てくださったのに。

カツラ

私のおばあちゃんは二人とも、私が生まれる前に死んだの。

クリコ

じゃ、この人は誰？
ただのアンドロイドよ。

クリコが走り去る。後を追って、カツラが走り去る。

ヨシダ先生　アンドロイドって、今度貸し出されることになった、機械の？
おばあちゃん　そうです。四月からクリコちゃんのおばあちゃんになりました。

ヨシダ先生がおばあちゃんに右手を差し出す。固い握手。

ヨシダ先生　アンドロイドの方には、家の母が病院でお世話になってるんです。

おばあちゃん

ご病気なんですか？

ヨシダ先生

最近はずっかり元気になりました。アンドロイドの方って、みんな若くて

おばあちゃん

ハンサムだから、母ったらいい歳こいて喜んじゃって。

ヨシダ先生

あの子はあんまり喜んでくれないんです。

おばあちゃん

でも、初めて話ができました。話をしなくちゃ、あの子がどんな子か、わ

ヨシダ

かりませんからね。

おばあちゃん

いい子ですよ。明るいし、責任感はあるし。ちよつと頑固だけど。

おばあちゃん

あの子が頑固になればなるほど、こつちもフアイトが湧いてくるんですよ。

クリコ・カツラがやってくる。

クリコ すみません。すみません。

そこへ、サカモトがやってくる。

サカモト あれ？ 柿本さんのお嬢さんじゃないですか。今日はどうしました？

クリコ どうして私のこと、知ってるんですか？

サカモト この前、お父さんの番組に出ましたよね？ どうですか、おばあちゃん

クリコ は？ 仲良くなれましたか？

サカモト 機械なんかと仲良くなれませんか。

クリコ それは、機械だと思いませんか？ FRSのおばあちゃんは、どこから

サカモト 見ても人間ですよ。だから、あなたが人間だと思えば――

クリコ 引き取ってください。

サカモト ……おばあちゃんをですか？

クリコ 家には必要ないんです。必要だと思ってるのは、お父さんだけです。

サカモト FRSでは必要だと判断したんですが。

クリコ お父さんの話だけで判断しないでください。

サカモト
確かに、あなたの意見も聞くべきだったかもしれないね。（奥に向かつて）ちよつと、ヒジカタくん。

そこへ、ヒジカタがやってくる。

サカモト
四月十日に、柿本さんと話をしたのは君だよ？　こちらはお嬢さんの――

ヒジカタ
クリコちゃんですか？

サカモト
おばあちゃんを引き取ってほしいって言うんだ。君が話を聞いてくれないかな。

ヒジカタ
わかりました。

サカモト
（クリコに）必要だと判断したのは彼です。あなたの話を聞いて、やっぱり必要ではないと判断したら、おばあちゃんは引き取りましょう。

サカモトが去る。

ヒジカタ
何か気に入らないことでもあったんですか？

クリコ
私の部屋を勝手に掃除したのよ。

カツラ
それくらいのことですら怒ってたの？

クリコ
引き出しまで勝手に開けたのよ。プライバシーの侵害よ。

カツラ
他の人に見られたら困るものが入ってたんだ。

クリコ
入ってないけど、手紙だって、ハサミだって、鏡だって、アンドロイドな

ヒジカタ
アンドロイドが機械だからですか？

クリコ
ヒジカタ

クリコ

ヒジカタ
クリコ

ヒジカタ

クリコ
ヒジカタ
クリコ

ヒジカタ

クリコ

ヒジカタ

クリコ

ヒジカタ

機械のくせに人間のふりをするからよ。
ふりなんかしてませんよ。アンドロイドは、自分が機械であることをよく知っています。

機械なら機械らしくしてればいいじゃない。家の中をウロウロ歩き回ったり、ああしろこうしろって命令することないじゃない。

仕方ないでしょう。それがおばあちゃんの仕事なんだから。

突然やってきて、おばあちゃんだって言われたって、はいそうですかって答えられないわよ。

最初は誰でもそうですよ。一緒に暮らしているうちに、ホンモノのおばあちゃんみたいな気がしてくるんです。

それがイヤなの。
ホンモノになることができますか？

：私のおばあちゃんは二人とも死んだのよ。死んじゃったけど、ホンモノのおばあちゃんだったのよ。新しいホンモノができたら、死んじゃった

ホンモノはどうなるの？
死んだ人のことより、生きているあなたのことを考えたらどうです。

私が生きているのは、二人のおばあちゃんがいたからじゃない。
しかし、今のあなたには何もしてくれないでしょう。

私がおかしてほしって言った？
言わなくても、お父さんには聞こえたんでしょう。

私におばあちゃんが必要だと思ふなら、死んじゃったおばあちゃんを生き返らせてよ。

それは無理です。

ヒジカタ

カツラ

クリコ
ヒジカタ

クリコ

カツラ
ヒジカタ

カツラ
ヒジカタ

クリコ
ヒジカタ

それが全く違うんです。アンドロイドの電子頭脳は、人間の脳をモデルにして作られています。人間の脳は、一度止まったら二度と動かない。アンドロイドの電子頭脳も、それと同じなんです。

じゃ、電気がなくなったら、アンドロイドは死ぬの？

(ヒジカタに) でも、電子頭脳を取り替えれば、また動き出すんでしょう？

ええ。しかし、今夜の充電を阻止すれば、話は別です。FRSの電気を止めれば、おばあちゃんは充電できなくなる。おばあちゃんだけじゃなくて、FRSに所属しているすべてのアンドロイドを壊せるんです。

すべてのアンドロイドを？

(ヒジカタに) FRSの人がそんなことしていいの？

よくはないけど、他に方法がありません。

でも、他の人に見られたら？ 警察に逮捕されちゃうよ。

そうならないように、うまくやりますよ。しかし、もし逮捕されたら、その時は僕が責任を取ります。(クリコに) 選ぶのはあなたです。あなたは

本当におばあちゃんがイヤですか？ 僕におばあちゃんを壊してほしいですか？

(うなづく)

じゃ、すぐに行動開始です。僕と一緒に来てください。

柿本・サイゴウが現れる。

サイゴウ

三つ目のニュースは、東京南部の停電に関する続報です。

柿本

本日午後六時頃、品川にあります関東電力の電力ターミナルに何者かが押し入り、施設を破壊して、送電機能を完全に停止させました。

サイゴウ

これによりまして、東京南部一帯が停電になっております。関東電力の発表では、復旧までまだしばらく時間がかかる模様です。

柿本

目撃者の話によりますと、電力ターミナルに押し入ったのは、三十歳前後の男で、胸にF R Sの三文字が入ったジャンパーを着ていたそうです。

サイゴウ

F R Sはファミリー・レンタル・サービスの略ですね。

柿本

さらに、この男は、小学生の女の子を二人連れていたそうです。二人は男の後ろについて回って、「いけいけ、やれやれ」と叫んでいたそうです。

サイゴウ

親子で強盗でもしようとしたんでしょうか。しかし、どうしてまた電力ターミナルなんか。

柿本

詳しい情報が入り次第、またお伝えしたいと思います。それでは次のニュース――

おばあちゃんがやってくる。

おばあちゃん おなか为空いた、腹ペコだ。ただいま。

そこへ、スギエがやってくる。

スギエ お帰りなさい。

おばあちゃん スギエさん、今日の夕ごはんはあんたが作ってくれる？ 私はこれからF

スギエ RSに行かなくちゃいけないの。月に一度の充電なのよ。

おばあちゃん あれ？ クリコは一緒にじゃないの？

スギエ 先に帰ったのかと思ったけど。

おばあちゃん お父さんの番組はみんなで見ると決めてるのに。

スギエ 私と顔を合わせたくないのね。

おばあちゃん 学校で何かあったの？

スギエ またクリコちゃんを怒らせちゃったのよ。私のことは、先生にもお友達に

スギエ も内緒にしたかったみたい。

おばあちゃん やっぱり誰にも話してなかったんだ。

スギエ スギエさんも内緒にしてるの？

おばあちゃん (首を横に振って) クラスの子がああ放送を見たのよ。次の日、学校に

スギエ 行ったら、アンドロイドに会わせてって、みんなに頼まれた。

おばあちゃん でも、誰も会いに来ないわね。

スギエ 全部断ったの。あなたは自分のおばあちゃんを見世物にできるのって言っ

おばあちゃん て。ありがとう。私なんかのために。

スギエ

おばあちゃんのためじゃないわ。私は私を見世物にしたくなかっただけ。アンドロイドが必要なくらい不幸な家だなんて、思われたくないもの。

おばあちゃん
スギエ

そんなこと、誰も思わないわよ。

だったら、どうしてこの家に来たのよ。この家には自分が必要だって思ったからでしょう？ でも、実際に来てみたらどう？ クリコは前より明るくなつた？ なるわけないわ。毎日、おばあちゃんの顔を見るたびに思い出すんだもの。家にはお母さんがいないんだってことを。

おばあちゃん

スギエ

私の顔が、お母さんに似てるから？

性格だってそっくりじゃない。アンドロイドなのに。人間じゃないのに。私がお母さんに似てるのはね、あんたたちにお母さんのことを忘れさせないためよ。

スギエ

おばあちゃん

そんなの残酷よ。

忘れてしまう方が、もっと残酷じゃない。思い出したって、悲しくなるだけじゃない。

スギエ

おばあちゃん

だから、私がいるのよ。

おばあちゃんじゃ代わりにならないの。私は代わりになるために来たんじゃない。この家の真ん中にポツカリ空いたクレーターは、あまりに大きすぎて、誰にも埋められない。クレーターのことを忘れるのは簡単だけど、それじゃ、いつまで経っても向こう側へは渡れない。だから、私はロイター板。

スギエ

おばあちゃん

ロイター板？

跳び箱の手前に置く板よ。この板を強く蹴れば蹴るほど、高く、遠くへ跳べるわけ。どんなに強く蹴ったって、機械だから壊れないのよ。

スギエ
おばあちゃん
壊れない機械なんてないわ。
私は特別。あんたたちを助けるために、壊れるわけにはいかないのよ。だから、安心して蹴ってちょうだい。

スギエ
おばあちゃん
本当に壊れないの？
壊れて暴れ出したらどうしようって思ったんでしょ？
大丈夫よ。電気がなくならない限り、私は不死身なの。

そこへ、カシオが飛び出す。手には携帯電話。

カシオ
スギエ
カシオ
姉さん、ニュースを見てた？
いけない。今、ちょっと話をしてたから。
大変なんだよ。ほら、今ちようど話してる。

柿本・サイゴウが現れる。

サイゴウ
たった今、レポーターのオオクボさんが、FRSの東京センターに到着したようです。オオクボさん。

オオクボ・サカモトが現れる。

オオクボ
はい、遅くなつて申し訳ありません。東京南部は六時から続く停電で、パニック状態に陥っています。JR、東京メトロなどの鉄道はすべて運休。そのため、道路はすべて渋滞です。

サイゴウ
オオクボ
サカモト
柿本
サカモト
柿本
サカモト
オオクボ
オオクボ
サカモト
柿本
サカモト
オオクボ
サイゴウ
サカモト
おばあちゃん

F R Sの方から、何か発表はあったんでしようか。三十分後に、記者会見が行われることになりました。その前にこちらのサカモトさんが、どうしても話をしたいとおっしゃるので。僕は柿本さんと話がしたいんです。

僕と？

品川の電力ターミナルを襲撃したのは、確かにF R Sの職員です。名前はヒジカタ。一カ月前に、あなたと話をした男です。

あの人なんですか？ でも、どうして？

それは、僕にもわかりません。五時頃でしょうか、誰にも言わずに、姿を消したんです。

その少し前に、二人組の小学生が来たんですね？

ヒジカタと話をしていたんです。

まさか……。

（柿本に）そのうちの一人がクリコちゃんなんですよ。

クリコちゃんって、柿本さんの娘さんの？

おばあちゃんを引き取ってほしいって、談判に来たんですよ。

でも、どうして電力ターミナルなんかを。

柿本さん、よく聞いてください。彼はアンドロイドなんです。

え？

僕たちF R Sの職員は、全員アンドロイドなんです。

あなたがアンドロイド？ またまた。

アンドロイドが狂うなんて、万に一つもありえないことです。しかし、もしそのありえないことが起こったとしたら……。

柿本
サカモト

柿本
おばあちゃん
スギエ
柿本

スギエ
カシオ
柿本
おばあちゃん

クリコは、クリコはどうなるんですか？
柿本さん、クリコちゃんが何をしようとしているのか、心当たりはありますか？

わかりません。東京を停電にして、あの子に何の得があるのか。
東京中が停電になったら、私のバッテリーは空っぽになるのよ。

それじゃ、クリコはおばあちゃんを動けなくするために？

（正面に向かって）おばあちゃん、このテレビを見ているか？ クリコ
を助けてください。あの子はきつと、自分が何をやっているのか、わから
ないんです。

おばあちゃん。

おばあちゃん。

おばあちゃん。

行きましよう。あの子の冬を終わらせるために。

クリコ・カツラ・ヒジカタが飛び出す。

8

クリコ　　やったあ！　二つ目も大成功！
ヒジカタ　あれだけ壊せば、修理するのに一週間はかかるでしょう。
クリコ　　それまでは、原始時代に逆戻りね。
ヒジカタ　原始時代はオーバーだな。電気が発明されたのは、江戸時代ですよ。
クリコ　　こういうことは、東京は一週間だけ、江戸に戻るんだ。
カツラ　　昔はこんなに暗かったの？
ヒジカタ　街灯もネオンサインもありませんでしたからね。
カツラ　　何だか恐くない？　人が誰もいないみたいで。
クリコ　　何言ってるのよ。あそこのビルは電気がついてるじゃない。ほら、あそこも。
ヒジカタ　たぶん、病院か消防署でしょう。公共の建物は、いざって言う時に、自家発電できるようになってるんです。
クリコ　　手術の最中に電気が消えたら、大変なことになるもんね。
カツラ　　でも、自家発電できない建物は？　みんな、困ってると思うよ。
クリコ　　仕方ないわよ。おばあちゃんを壊すためには、東京中を停電にするしかないの。

カツラ
ヒジカタ
カツラ
ヒジカタ

そうかな。私は、F R S だけ停電にすればよかったと思うけど。いや、それだけではダメなんです。どうして？

アンドロイドの整備工場は、F R S の他にもたくさんあります。F R S が停電になっても、他の所へ行けば、すぐに充電できてしまう。

だからって、東京中を真っ暗にするなんて。

カツラ
クリコ
カツラ
クリコ

何よ。あんた、後悔してるの？

カツラ
クリコ
カツラ
クリコ

そうじゃないけど、恐いのよ。街がどんどん死んでいくみたいで。

カツラ
クリコ
カツラ
クリコ

恐いのがいやなら、家に帰って布団をかぶって寝れば。

カツラ
クリコ
カツラ
クリコ

一人じゃ帰れないよ。

ヒジカタ
クリコ
ヒジカタ
クリコ

だったら我慢しなさいよ。(ヒジカタに) 次はどこへ行くの？

ヒジカタ
クリコ
ヒジカタ
クリコ

新宿です。(急に立ち止まって) いよいよ、次が最後です。さあ、車に乗

クリコ
ヒジカタ

って。

クリコ
ヒジカタ

どうしたの、ヒジカタさん？

クリコ
ヒジカタ

ちよつと疲れたかな。まあ、気にしないで。(また動き出して) 江戸時代

クリコ
ヒジカタ

まで、あと一歩です。

三人が走り去る。おばあちゃん・カシオが飛び出す。カシオの手には携帯電話。耳にはイヤホン。

カシオ
おばあちゃん
カシオ

のんびり歩いてないで、走ろうよ。
慌てない慌てない。
それで、僕たちどこへ行くの？

おばあちゃん

カシオくんはどこへ行けばいいと思う？

カシオ

東京の電気を全部止めるなら、他の電力ターミナルへ行くとと思う。

おばあちゃん

他はどこにあるの？

カシオ

新宿と両国。

おばあちゃん

それじゃ、とりあえず新宿へ行きましょう。

カシオ

とりあえず？ 全く頼りないなあ。あれだけカツコつけて家を飛び出したのに。

おばあちゃん

ちようどよかった。バスが来たわよ。

カシオ

バスで行くの？

おばあちゃん

電車はみんな止まってるんでしよう？

カシオ

アンドロイドなんだからさ、空を飛ぶとか、時速二〇〇キロで走るとかしてほしいよな。

二人がバスに乗る。

おばあちゃん

さっきから何を聞いてるの？

カシオ

ニュース・プラネット。

おばあちゃん

テレビの音も入るんだ。おばあちゃんにも聞かせてくれない？

カシオ

もう電池が切れかかっているんだよ。(携帯電話を渡す)

おばあちゃん

私の電気を使えば大丈夫よ。(イヤホンを外す)

二人が去る。柿本・サイゴウが現れる。

柿本

サイゴウ

柿本

サイゴウ

柿本

サイゴウ

サイゴウ

クリコ・カツラ・ヒジカタが飛び出す。

カツラ

ヒジカタ

カツラ

クリコ

ただ今入りました情報によりますと、今から五分ほど前、正確には午後七時三〇分頃、東京東部一帯が停電になりました。

まだ確認はできておりませんが、今度は両国の電力ターミナルが、送電機能を停止した模様です。

またクリコのやつがやったんでしようか。テレビをご覧の皆さん、本当に申し訳ございません。

停電になったご家庭は、ご覧になってないんですよ。次に停電になるご家庭に、あらかじめお詫びを申し上げます。

さて、今回の事件の主犯格であります、F R S 職員のヒジカタ容疑者ですが、彼はF R S に来る前は、本郷の東大病院に勤めていたんですね。

先ほど、電話で東大病院に問い合わせてみたんですが、ヒジカタ容疑者は一年前から、老人科の看護人として熱心に仕事をしていたそうです。

ところが、今年の三月、入院中の患者の一人が、急死してしまつたんです。

あの車、どうするの？

渋滞がひどくて、前に進まないんです。置いていくしかないでしょう。

持ち主に返さなくていいの？

悪いと思うなら、あなたが返しに行きなさい。

あのバイクに乗りましょう。

また勝手に借りちゃうの？

鍵もないのに、よく動かせるわね。

ヒジカタ

こう見えても、機械には詳しいんですよ。さあ、バイクに乗って。

三人が去る。バイクが発進する音。

柿本

これは、心臓の手術をした夜に容体が急変したもので、ヒジカタ容疑者の当直中だったんですね。遺族はアンドロイドの看護にミスがあったのではないかとして、裁判所へ訴えたんです。

サイゴウ

その後の調べで、ヒジカタ容疑者には全くミスのなかったことが明らかにになりました。しかし、ヒジカタ容疑者はこれを機に、FRSへ移動するこ

柿本

とになったんです。これは、ヒジカタ容疑者本人の希望によるものでした。自分の看護してきた人間の死が、アンドロイドの心を狂わせたのでしょうか。

サイゴウ

おばあちゃん・カシオが飛び出す。

カシオ

大事な電気を、ケータイなんかに使っちゃっていいの？

おばあちゃん

大丈夫大丈夫。いざとなったら、これで充電するから。

カシオ

髪の毛で？

おばあちゃん

アンドロイドの髪の毛は、全部太陽電池になってるの。バッテリーが切れると同時に、太陽電池が作動するのよ。

カシオ

ということは、光がなくならない限り、アンドロイドは不死身なんだ。

おばあちゃん

さあ、着いた。新宿よ。

二人が去る。バイクが停車する音。クリコ・カツラ・ヒジカタが飛び出す。

ヒジカタ 表から入ると目立ちますね。裏へ回りましょう。

クリコ ここを壊せば、江戸時代の完成ね？

ヒジカタ アンドロイドなんかいなかった時代です。

三人が走り去る。

柿本 ヒジカタ容疑者が次に襲撃するのは、東京西部一帯に電力を供給する、新

宿ターミナルとされます。

サイゴウ レポーターのオオクボさんが、たった今、到着した模様です。オオクボさん。

オオクボが飛び出す。

オオクボ

はい、今度は遅れませんでした。このターミナルは、東京に残された、最後のひとつとなつてしまいました。ここが破壊されれば、東京二十三区は完全に真つ暗闇です。

柿本

オオクボ

クリコはまだ来ませんか？
人の姿はどこにもありません。私が一番乗りです。もしこの場に犯人が現

柿本

サイゴウ

他のマスクミはともかく、警察は何をしていますんだ。
都内の交通は完全に麻痺していますからね。

オオクボ

あっ！

アンドロイドが現れましたか？

オオクボ

現れました。アンドロイドのおばあちゃんが。

そこへ、おばあちゃん・カシオが飛び出す。

柿本

オオクボ

おばあちゃん！
おめでとう。二番と三番です。

おばあちゃん
クリコちゃんはまだですね？
カシオ ここには裏口はないのかな？
オオクボ ありますよ。でも、鍵がかかっているから、中には入れないでしょう。
サイゴウ オオクボさん、中に誰かいるみたいですよ。
カシオ あっ、クリコ！

そこへ、クリコ・カツラ・ヒジカタが飛び出す。

カシオ やっぱ裏から入ったんだ！
オオクボ まさに裏をかかれたわけですね！
カシオ おばあちゃん！

おばあちゃんが扉を押す。ヒジカタが扉を押さえる。

ヒジカタ エレベーターは？
クリコ 地下三階。
ヒジカタ 早く呼ぶんだ。
柿本 クリコ！ おまえは、自分が何をやっているのかわかってるのか？
サイゴウ (クリコに) あなたのおかげで、何百万人も人が困っているのよ。
カシオ (クリコに) おばあちゃんが死んでもいいのか？
クリコ 死ぬのは人間だけよ。アンドロイドは、動きが止まるだけ。
柿本 おばあちゃん人間だ。
クリコ 違う。

柿本

どこが違うんだ。おばあちゃんは笑う。おばあちゃんは怒る。おばあちゃんはおまえのことを心配する。心配するのは人間だけだ。心配するのは、おまえが好きだからだ。

私は好きじゃない。

どうして。

決めたのよ。もう誰も好きにならないって。

クリコ
柿本
クリコ

エレベーターの扉が開く。

カツラ

来たよ。
先に乗って。

柿本

(クリコに) 母さんが死んだからか。おまえの大好きだった母さんが。

クリコ・カツラ・ヒジカタがエレベーターに飛び乗る。おばあちゃんが駆け寄ると、扉が閉まる。

カシオ

上へ行ったよ。

オオクボ

三階に、このターミナルのコントロールセンターがあるんです。

おばあちゃん

階段は？

カシオ

あっちにある。

オオクボ

私も行きます。

おばあちゃん・カシオ・オオクボが走り去る。

サイゴウ

オオクボさんが三階に着くまで、コマージュルをどうぞ。

柿本とサイゴウが去る。エレベーターの扉が開く。クリコ・カツラ・ヒジカタが飛び出す。

ヒジカタ

階段は？

カツラ

あっちにある。

ヒジカタ

シャッターを下ろしておけば、簡単には入って来られないでしょう。いくらアンドロイドでも。

クリコ

そう言えばさっき、アンドロイドに押されて、よく我慢できたね。

ヒジカタ

それは、僕もアンドロイドですから。

カツラ

ヒジカタさんて、アンドロイドなの？

クリコ

嘘よ。別に隠していたわけじゃないんですよ。でも、人間だと思えば、人間に見えるでしょう？

カツラ

見える見える。言われなければ気がつかなかった。

クリコ

嘘よ。アンドロイドのわけない。

ヒジカタ

アンドロイドじゃなかったら、とつくに感電して死んでますよ。だったら、どうしてこんなことするの？ 東京中を停電にしたら、あなた

クリコ

も一緒に壊れるのよ。

ヒジカタ

僕のことはどうでもいい。あなたはアンドロイドがイヤなんでしょう？

クリコ

私がイヤなのは、あの人だけよ。

ヒジカタ

だったら、壊すしかないんだ。危なくなったら、呼んでください。

ヒジカタが走り去る。そこへ、おばあちゃん・カシオ・オオクボが飛び出す。

オオクボ

なんと、シャッターが下りています。

おばあちゃん

力仕事なら、任せなさい。(シャッターをつかむ)

カシオ

クリコ、そっちにいるのか？

カツラ

クリコちゃん、呼んでるよ。

カシオ

(クリコに)おまえはおばあちゃんと話をしてないだろう？ 話もしないで、どうしてイヤがるんだ。話をすれば、アンドロイドだなんて思えなくなるんだぞ。

クリコ

アンドロイドだって、人間だってイヤなの。おばあちゃんなんか知らないの。

おばあちゃん

だったら、せめて、お友達にでもしてくれないかな。

カツラ

ヒジカタさん、シャッターが上がってきた。

ヒジカタが飛び出す。

ヒジカタ

よし、これで東京は真っ暗になった。

カシオ

嘘つけ。こんなに明るくないか。

ヒジカタ

この建物は自家発電に切り替わったんだ。(クリコに) 発電機は屋上です。さあ、エレベーターに乗って。

オオクボ

今度は屋上ですか？

カシオ

(ヒジカタに)まさか、発電機まで壊すつもりか？

ヒジカタ

光がなくならない限り、おばあちゃんは壊れない。(クリコに) さあ。

おばあちゃんがシャッターを押し上げる。クリコ・カツラ・ヒジカタがエレベーターに飛び乗る。カシオが駆け寄ると、扉が閉まる。

おばあちゃん

(急に立ち止まって) クリコちゃん……。

カシオ

もう電気がないの？

おばあちゃん

太陽電池に切り替えただけで、間に合わないみたい。

カシオ

大丈夫？

おばあちゃん

(また動き出して) うん。

オオクボ

また階段を上がるんですね？

カシオ

イヤなら、ついて来なくていいよ。

オオクボ

でも、このビルは二十階建てですよ。屋上へは、まだ十七階もあるんですよ。

おばあちゃん・カシオ・オオクボが走り去る。エレベーターの扉が開く。クリコ・カツラ・ヒジカタが飛び出す。

カツラ

わあ、本当に東京が真っ暗だ。

ヒジカタ

(発電機を指さして) こいつを壊せば、おばあちゃんも壊れますよ。

クリコ

あなたも一緒に壊れるじゃない。

ヒジカタ

仕方ないでしょう。僕もアンドロイドなんだから。

クリコ

それじゃ、自殺よ。

ヒジカタ

アンドロイドに自殺はできません。しかし、人間のためにすることが、結果的に自分を殺すことになったら、それはそれで仕方ないことなんです。

そこへ、おばあちゃんが飛び出す。

おばあちゃん

あんたの患者さんが死んだから？
信じられない。どうしてこんなに早く来られたの？

カツラ

おばあちゃん

(ヒジカタに) それはあんたのミスじゃなかったんでしょ？
僕には何もできなかった。二十四時間看護しても、話をして仲良くなって

ヒジカタ

も、アンドロイドはアンドロイドなんです。アンドロイドは死なないから、

おばあちゃん

死んでいく人間の悲しみはわからない。アンドロイドに人間は救えません。でも、人間のためにできるだけのことをするのが、アンドロイドの仕事の

ヒジカタ

はずよ。
本当に人間が救えるのは、人間だけなんです。人間に必要なのは、人間だけ

おばあちゃん

けなんです。
だから、アンドロイドはいらない？

ヒジカタ

(クリコを示して) この子だって、そう言ってるじゃないですか。

クリコ

アンドロイドだって人間だって同じよ。お母さん以外はいらぬの。

ヒジカタ

そうです。人間は、自分一人の力で生きていくしかないんです。死ぬ時は

おばあちゃん

たった一人なんだから。
一人で生きてる人間がどこにいるの。

ヒジカタが発電機を叩く。凄まじい爆発音。一瞬で闇に。

クリコ

おばあちゃん？

おばあちゃんの動きが止まる。倒れる。

クリコ

おばあちゃん！ おばあちゃん！

クリコがおばあちゃんに駆け寄る。

おばあちゃん

：：アンドロイドだって、いつかは壊れる。動かなくなる。死ぬ。だから、私を嫌っていたのね？ 好きになっても、もし私が死んだら、またお母さんの時のように、悲しい思いをしなければならなくなる。だから、私が壊れる前に、自分の手で壊そうとしたのね？ 東京が真っ暗になれば、私は死ぬ。光がなくなれば、太陽電池さえ役に立たない。でもね、地上の光をすべて消しても、空の光は消せないの。東京だって、こんなに暗くなれば、こんなに星が見えるじゃない。星の光がこんなにあれば、私は死なない。私は決して死なないの。クリコちゃんを一人にはしない。ごらんささいよ。広くてすてきな宇宙じゃない。

クリコ

：：おばあちゃん！

カシオがやってくる。

カシオ

こうして春がやってきた。クリコのしでかした事件は、日本中で大評判になつたけど、主犯はヒジカタというアンドロイド。アンドロイドを作つたのは政府だから、停電の時に起きた被害は、全部政府が弁償してくれた。とは言え、クリコだって、父さんからこつぴどく叱られた。子供を叩くのは親の仕事だ。そして、お尻に絆創膏を貼るのは、おばあちゃんの仕事だ。つた。あれから四年。四年なんてあつという間だ。思い出を数え出したら、きりが無い。もちろん、その一つ一つの間に、いつも必ずおばあちゃんがいる。いた。おばあちゃんがいるから、何でもできた。おばあちゃんがいるから、どこへでも行けた。家に帰れば、いつも必ず、おばあちゃんがいる。

そこへ、柿本がやってくる。

柿本

カシオ、いつまで待たせるんだ。おばあちゃんは怒らなくても、父さんは怒るぞ。

カシオ

今、行く。
スギエとクリコはどうした。

カシオ　お別れのプレゼントを取りに行った。
柿本　なぜ昨日言ってくれないんだ。父さん何も用意してないよ。
カシオ　今、思いついたんだよ。さあ、行こう。

カシオ・柿本が去る。スギエ・クリコがやってくる。

スギエ　あれ？　おばあちゃんは？

そこへ、おばあちゃんがやってくる。

おばあちゃん　あんまり待たせるから、夕食の支度をしちゃったわよ。

スギエ　ごめん。この前習った煮物を作ろうと思ってたのに。

クリコ　おばあちゃん、これ。(紙袋を差し出す)

おばあちゃん　私にくれるの？

クリコ　何にも用意する暇がなかったから。

スギエ　(おばあちゃんに)私も。(紙袋を差し出す)

おばあちゃん　こんな物をもたらわなくても、あんたたちのことは忘れないわよ。
クリコ　でも、もらってほしいのよ。

カシオ・柿本がやってくる。

カシオ　僕もこれ。(紙袋を差し出す)

おばあちゃん　ありがとう。次の家で飾らせてもらおうわ。

柿本　すみません。僕は何にも用意してなくて。

おばあちゃん　お父さんには四年前にもらいましたよ。

柿本　え？

おばあちゃん　この子たちに会わせてくれたじゃないですか。

クリコ　…もう会えないの？

おばあちゃん　会えるわよ。毎月十日はFRSに充電に行くから、FRSにいらっしやい。

クリコ　私がおばあちゃんを必要になつたら、また来てくれる？

おばあちゃん　高校生にもなつて、おばあちゃんが必要じゃ、困るわね。

クリコ　私が歳をとつて、おばあちゃんになつて、また一人ぼっちになつたら？

クリコ　子供じゃないとダメなの？

おばあちゃん　クリコちゃんももし本当に必要になつたら、いつでも飛んでくるわよ。

クリコ　約束ね？

おばあちゃん　（うなづく）

カシオ　…おばあちゃんはアルコルなんだね。

おばあちゃん　アルコル？

カシオ　いつでもミザールと一緒にいて、でも、知らない人を見ると、ミザールだ

おばあちゃん　けが光つてるように見える。

おばあちゃん　ミザールがなかったら、アルコルなんて小さな光よ。

おばあちゃんが去る。四人が見送る。やがて、柿本・スギエが去る。

カシオ

ここからは未来の話になる。未来と言っても、ほんの六十年先の時代だ。しかし、人間にとっては充分な長さだ。クリコは結婚し、子供を産み、子

供を育て、その子供も結婚し、孫を産む。クリコと夫は歳をとり、夫はやがて亡くなり、クリコは一人ぼっちになる。子供や孫はたまに会いに来るが、クリコは一人で生きていくしかない。そんなある日、六十年前の約束をふと思い出す。必要になったら、いつでも飛んでくると言った、あの人のことを。電話のボタンを押す指が震える。もしもし、もしもし。

別の場所に、ヒジカタが現れる。

ヒジカタ

はい、FRSです。

クリコ

私のおばあちゃんに会わせてください。約束したんです、六十年前に。必要になったら、いつでも飛んでくるって。

ヒジカタ

あなたにとって、本当に必要なら。

クリコ

必要です。私には、おばあちゃんが必要です。

ヒジカタ

わかりました。

ヒジカタが去る。

カシオ

そして、おばあちゃんはやってくる。日傘を差して、トランクを持って。六十四年前と同じように、あのチャイムを鳴らす。

チャイムの音。

クリコ どうぞ。

扉が開く。おばあちゃんが立っている。

クリコ 覚えてる、私のこと？

おばあちゃん 覚えてるわよ。クリコちゃんが言ったこと。したこと。一緒に暮らした四

クリコ 年間のことは、全部覚えてる。

それなら、教えて。どうしてあんなに早く来られたの？ あのビルは二十

階建てだったのに。エレベーターは、私たちが使ってたのに

おばあちゃんは何でもできるのよ。クリコちゃんのためなら。

クリコ でも、どうして？

おばあちゃんが笑う。そして、空へと舞い上がる。見上げるクリコ。夜空は星でいっぱいだ。